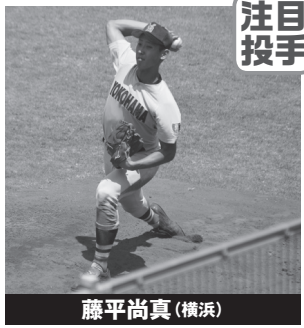


直近の甲子園出場校		ドラフト関連度	
12夏	桐光学園	総合	
13春	—	A	
13夏	横浜	野手	投手
14春	横浜	B	A
14夏	東海大相模		
15春	—		
15夏	東海大相模		
16春	—		

神奈川県

7月10日〜30日(横浜スタジアムほか)

横浜と東海大相模の熾烈な覇権争い勃発
ドラフト1位候補・藤平の成長に期待!



注目投手

藤平尚真(横浜)

投手編

逸材右腕たちの見どころは?

右腕に好投手が揃った。ドラフト1位候補の藤平尚真(横浜)はアベレージで140キロ台中盤をマークするストレートに空振りを取れるスライダー、2種類のフォークと、各球種の質が高い。夏の見どころは、試合中盤以降のピッチングだ。スライダーの影響が腕が横振りになり、ストレートのキレを欠く傾向がある。

最速147キロのストレートとフォークが武器の北村朋也(東海大相模)は昨秋に比べて、ややテイクバックを小さくし、コントロール重視に変えてきた。課題は調子の波が激しいこと。調子が悪い

ときにどこまで試合を作れるか。復活を期すのが高田孝一(平塚学園)。1年秋にエースとして県大会優勝、2年夏には東海大相模を7回まで1失点に封じ込めた。その後、調子を崩し、自慢のストレートが痛打される場面がしばしば見られた。フライアウトが取れているときは、状態がいい証だ。

右サイドの小川隼平(桐蔭学園)は183センチ90キロのがっちり体型から投げる動くストレートが特徴。レフトを守るキャプテンの小川航平は双子の兄で、小川兄弟の活躍が17年ぶりの夏制覇のカギを握る。

2年生ではスライダーのキレが光る森田晃介(慶應義塾)に注目。春は調子を崩していたが、エース

格の木澤尚文(慶應義塾)のピッチングセンスも高い。

左腕で、大学球界から高い評価を受けているのが石川達也(横浜)。春の関東大会では138キロをマークしたが、体ができてくればさらにスピードは増すはず。腕を振って投げるフォークは攻略困難なウイニングショットだ。

林明良(横浜隼人)は最速143キロのストレートとスライダーが武器。まだ調子にムラがあるが、はまったときのピッチングにはすごみがある。同じ横浜隼人では、林俊太郎の将来性も楽しみ。194センチ92キロの超大型右腕で、高校入学に体重が23キロアップした。春は腰痛で離脱していたが、夏には復活の予定だ。

神奈川県の主な注目選手

守備	名前	所属	学年	身長	体重	投打	評価	コメント
投手	小川 隼平	桐蔭学園	3	183	90	右右	C+	右サイドスローから投げ込む130キロ後半のストレートは威力十分
投手	北村 朋也	東海大相模	3	181	81	右右	C+	最速147キロのストレートとフォークが武器。「打倒・藤平」に燃える
投手	高田 孝一	平塚学園	3	181	84	右右	C+	2年秋から調子を崩した。スピン量の多いストレートがどこまで戻るか
投手	石川 達也	横浜	3	177	65	左右	C+	ストレートとフォークのコンビネーションが光る勝てるタイプの左腕
投手	藤平 尚真	横浜	3	186	82	右右	A	恵まれた素材だけでなく、ストイックに練習できる姿勢にも魅力あり
投手	林 明良	横浜隼人	3	181	83	左左	C+	最速143キロのクセ者左腕。速いうえに動くストレートは大きな武器
一塁手	中川 颯	桐光学園	3	184	79	右左	B+	ミート力に優れた神奈川屈指の安打製造機。アンダースローも美しい
二塁手	浅見遼太郎	横浜隼人	3	171	70	右左	C+	ここ一番の勝負どころで結果を残す強打者。背の小ささを感じさせない
外野手	赤尾 光祐	東海大相模	3	184	80	右右	C+	左が村田なら右は赤尾。迫力満点のフルスイングが、最大の魅力だ
外野手	村田 雄大	横浜	3	185	85	右左	B	県を代表する左のスラッガー。相模戦で放った左中間への本塁打は衝撃